

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16109010	新しい情報伝達タンパク質研究から迫る咬合と脳機能の関連－基礎歯科学からの先駆的情報発信－	平田 雅人 (九州大学・大学院歯学研究院・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>代表研究者らが独自に見出した GABA 受容体関連分子 PRIP を欠損するマウスを作成し、その遺伝子改変マウスの分子生物学的および行動学的解析により、咬合と脳機能の関連における GABA 受容体の役割を明らかにしようとする興味深い研究である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>既に PRIP-1/PRIP-2 DKO マウスが作成されており、その解析を進めることにより、様々な脳・精神機能の発現における GABA 受容体活性化の役割の解明が期待される。</li> <li>GABA 受容体のリン酸化/脱リン酸化の調節機構の解明により、脳・精神機能発現の分子基盤の理解が深まると期待される。</li> <li>DKO マウスの予測外の phenotype に関する知見は、これまで知られていなかった GABA 受容体の新しい役割の解明につながると期待される。</li> <li>中間評価の時点において、十分な学術的業績が得られている。</li> <li>断片的で、総合的に本研究のゴールとの関連がわかりにくい成果がある。特に咬合との関連を今後どのような具体的アプローチにより解析するかを明示して頂きたい。</li> <li>社会的意義を視野においている点は評価できるが、どのように社会に還元できるかに関して、もう少し具体的な方策を検討して欲しい。</li> <li>PRIP の役割を明らかにするために、野生型、ならびに単独 KO マウスとの比較も含めて、DKO マウスの解析をより深く進めるべきであろう。</li> <li>分子メカニズムの追求のために、今後は神経細胞培養実験も行う必要がある。</li> </ol>			